

7月になると新しい後期研修医も外科医らしき姿に成長しつつあり、手術でのカメラワークもだいぶ上達してきた。私が外科に入局したのは昭和61年であるが、当時は肺癌の手術は大きな開胸下に行われ、第3助手として術野が見えない場所で長時間ひたすら鉤を引くことと皮膚縫合が仕事であった。内視鏡下手術という概念もない時代のことである。剃毛、ブラシでの手洗い、術後抗生剤1週間、止血剤の点滴などが常識であったが、現在ではこれらは非常識（禁忌!?）となり、行われていない。振り返ると医学は大きく変貌している。現在の研修医は克明なモニター画像を通して術野の様子がリアルタイムに見ることができ、私が受けた手術教育とは隔世の感がある。昔は年長者の助言によって治療方針が決定されたことも少なからずあったが、普遍的な経験談が多く大変勉強になった。最近ガイドラインを順守することや、教室で統一したある種のデジタルな方針を求め、客観的に治療方針が決定されなければ落ち着かない若い医師もいるようである。もちろん臨床は科学的な思考の積み重ねであり、EBMを尊重する姿勢は奨励するが、同時に実臨床において一つの解を求めることが難しいことも多々あることを理解してほしい。たとえば電車の中で座席を譲るのは何歳からなどという取り決めはなく、自らが判断するしかない。内視鏡下手術中にアクシデントがあり開胸に移行する場合にも明確な基準があるわけではなく、自らの判断で瞬時に決定しなければならない。どのような質の高い教育プログラムやマニュアルを以てしても、臨床に想定外の事象はつきもので、その際は知識を駆使し、最後は決断力で解決していく必要がある。このような理論を超越した洞察力こそがプロフェッショナルの技量であり、自らの体験や他者の経験から学びながら身につけるものである。

編集委員として論文を審査しているが、本誌はアイデアの宝庫である。数ページの論文誌面の裏には外科医の苦心が凝縮している。査読をしていても術者の胸の鼓動が伝わってくる論文も多々ある。誌面には限りがあるので、投稿論文が必ずしも掲載されるとは限らないが、自らの工夫や考えを他者に伝えようとする努力は、いつかは真の実力となって報いられると信じる。

外科学の変貌は内視鏡下手術の定着を抜きにしては語れず、内視鏡外科学の進歩は今もお急速である。新たに吸収すべき知識や情報量は倍加しており、学会誌は学術集会とともに、生涯教育の根幹となるものである。本誌がエビデンスとともに有益な臨床体験や工夫を提供し、新たな挑戦をする外科医の一助となるよう願っている。

(池田徳彦)

日本内視鏡外科学会雑誌

(第17巻 第4号) 2012年8月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価: 2,940円 (本体2,800円+税5%)。*会員には毎号送付されます。

2012年 年ぎめ予約購読料: 冊子版17,160円、電子版/個人17,160円、電子版/共有19,800円、冊子+電子版/個人22,160円、冊子+電子版/共有24,800円 (税込) (配送料: 医学書院負担) *会員には冊子版が毎号送付され、学会ホームページから電子版が閲覧できます。

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 北野正剛)

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル18階

日本コンベンションサービス株式会社内

☎03-3503-5917 Fax 03-3508-1302 E-mail: jses@convention.co.jp (担当: 野上)

<http://www.jses.or.jp>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 18F-1-4-2 Kasumigaseki, Chiyodaku

Tokyo, 100-0013, Japan ©2012, Printed in Japan

発売: 株式会社医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 水野, 田村, 安部) <http://www.igaku-shoin.co.jp/><http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 / E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036 (Fax 03-3817-8044)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

●原著

付属器茎捻転に対する一期的あるいは二期的腹腔鏡下保存手術中山大介・他 済生会長崎病院産婦人科
精索静脈瘤に対する単孔式腹腔鏡下手術の経験青木裕章・他 獨協医科大学越谷病院泌尿器科

●症例報告

内側乳癌症例に対し単孔式鏡視下乳房温存手術を施行した 1 例越田佳朋・他 東京都済生会中央病院外科
副交通胆管枝を温存しえた腹腔鏡下胆嚢摘出術の 1 例山田秀久・他 医療法人清田病院外科

但し誌面の都合により変更がございます。ご諒承ください。